法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　1日　木曜

先負　房
旧 12 月 22 日

妙法蓮華経信解品第四

於一乗道（おいちじょうどう）　随宜説三（ずいぎせっさん）

「一乗道に於いて　よろしきに随って三と説く」

仏さまが私たちを教え導いてくださるその目的地は、皆同じ「仏の境地」です。
そこへの一本道が「一乗道」です。
お釈迦さまは、私たち一人ひとりの立場や能力に合わせて、声聞・縁覚・菩薩という三つの説き方を示してくださいました。
その教えに従って修行を重ねていけば、気づかぬうちに「宝」を得るように、いつしか仏の境地にたどり着けるのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 **2** 日 金曜

仏滅　心
旧 12 月 23 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

誠如所言（じょうにょしょごん）

「四大声聞の領解を認める」

信解品にて、四大声聞を代表して迦葉が述べた内容が正しいとお釈迦さまは認められました。しかし、それだけでは広大な仏の教えを十分理解できない者もいるだろうから、さらに自分の言葉も添えて説くことにしようと「三草二木の喩え」を述べられます。すべての人々の機根を見極めて、それぞれにふさわしい救いを与えてくださるのが仏さまの智慧であることの喩え話が始まるのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 **3** 日 土曜

節　分
大安　尾
旧 12 月 24 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

深心所行（じんしんしょぎょう）

「心の深いところまでお見通しの仏さま」

私たちは自分の心がどのように動いているのか、自分ではわからないものです。
善い事をしているつもりでも、心の奥に悪い心が動いていたり、一生懸命のつもりでも、どこかに怠け心が混じっていたりするものです。
自分でも気づかないうちに、いろいろな心持ちが次から次へと湧き上がってくるものです。
仏さまはそのすべてをお見通しの上で導いてくださるのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月

4日

立春
赤口　箕
旧 12 月 25 日
日曜

妙法蓮華経薬草喩品第五

根（こん）・茎（きょう）・枝（し）・葉（よう）

「根・茎・枝・葉は、信・戒・定・慧を表す」

雲から降り注ぐ雨がさまざまな木や草を潤し、大中小の根・茎・枝・葉が雨を受ける描写から「三草二木の喩え」が始まります。

「根」は仏さまの教えをしっかり捉える「信」を、「茎」は仏さまの教えを守る心「戒」を、「枝」は心が散乱しないように定める「定」を、「葉」は仏さまの教えを理解する「慧」を表しています。

枝葉が繁り植物が育つように、仏さまの智慧の光を受け、私たちも成長するのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　５日　月曜

先勝　斗
旧 12 月 26 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

随上中下（ずいじょうちゅうげ）　各有所受（かくうしょじゅ）

「上中下に随って、各々受ける所あり」

「上」とは、仏さまのようになりたいと望み、学び、実践する上根の人。
「中」とは、勝れた教えを求める思いはあるが、何がよい教えなのかわからない中根の人。
「小」とは、教えが大事なことは理解できても、仏教と他の教えの区別ができない下根の人。
上中下の機根の差があっても、草木が雨を受けて潤うように、それぞれの分に応じて仏さまの慈悲がそそがれているのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　６日　火曜

友引　女
旧 12 月 27 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

一地所生（いちじしょしょう）　一雨所潤（いちうしょにん）

「同じ地面に生える草木が、同じ雨を受ける」

同じ地面から生えている草木にそれぞれの差異があっても、同じ雲から雨が降り注ぎます。仏さまもそれぞれの機根に応じて、大きな慈悲をもって教えを説いてくださいます。深く理解する者、浅く解釈する者、さまざまに受け止めたとしても、仏さまの教えそのものは尊いものなので、決して無駄にはなりません。少しだけわかっただけでも、小さな草が育つように、その功徳は大きなものなのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　７日　水曜

先負　虚
旧 11 月 28 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

出現於世（しゅつげんのぜ）　如大雲起（にょだいうんき）

「世に出現すること、大雲の起こるが如く」

仏さまがこの世の中に出現されたのは、大きな雲が空に起こるのと同じようなことです。仏さまは大音声をもって、世界の隅々までも響き渡るような広大な教えを説かれたのです。それは、人間界のみならず、天上界や修羅界をはじめすべての世界に覆いかぶさった雲から雨が降るようであったと説かれています。雲や雨と草木の関係を仏さまと私たちの関係に置き換えると、仏さまの大きさがわかります

妙法蓮華経薬草喩品第五

爾時世尊。告摩訶迦葉。及諸大弟子。善哉善哉迦葉。善説如来。真実功徳。誠如所言。如来復有。無量無辺。阿僧祇功徳。汝等若於無量億劫。説不能尽。迦葉当知。如来是諸法之王。若有所説。皆不虚也。於一切法。以智方便。而演説之。其所説法。皆悉到於。一切智地。如来観知。一切諸法。之所帰趣。亦知一切衆生。深心所行。通達無碍。又於諸法。究尽明了。示諸衆生。一切智慧。迦葉。譬如三千大千世界。山川渓谷土地。所生卉木叢林。及諸薬草。種類若干。名色各異。密雲弥布。気覆三千大千世界。一時等橘。其沢普洽。卉木叢林。及諸薬草。小根小茎。小枝小葉。中根中茎。中枝中葉。大根大茎。大枝大葉。諸樹大小。随上中下。各有所受。一雲所雨。称其種性。而得生長。華果敷実。雖一地所生。一雨所潤。而諸草木。各有差別。迦葉当知。如来亦復如是。出現於世。如大雲起。以大音声。普徧世界。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　８日　木曜

仏滅　危
旧 12 月 29 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

未度者令度（みどしゃりょうど）　未解者令解（みげしゃりょうげ）
未安者令安（みあんしゃりょうあん）　未涅槃者令得涅槃（みねはんしゃりょうとくねはん）

「仏さまの四つの願い」

この四句を「四度」といい、四弘誓願の代わりにこの文を訓読にして唱えることがあります。四度は、すべての仏さまに共通する誓願です。「度」は渡るの意味で悟りの世界に渡すこと、「解」は一切の迷いを払うこと、「安」は安心を得ること、「涅槃」は本当の悟りのこと。仏さまは、いつまでも「渡れない者」「迷いを払えない者」「安心を得られない者」「涅槃を得られない者」を導いてくださっているのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月　９日　金曜

大安　室
旧 12 月 30 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

知道者（ちどうしゃ）　開道者（かいどうしゃ）　説道者（せつどうしゃ）

「道を知り、開き、説く」

仏さまは世の中の真実を知り、見極めることができるので、人々を導く道を知り、道を開き、道を説くことができるのです。
道を知るための智慧と慈悲を具えた意（こころ）、道を開く手本となる行いができる身（からだ）と、道を説くため様々な機根の者に伝える口（くち）の三業を完全に具え、四度の誓願を立てられたのが仏さまです。
私たちはそれを信じて修行に励みましょう。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 10 日 土曜

先勝　室
旧１月１日

妙法蓮華経薬草喩品第五

随其所堪（ずいごしょかん）

「其の堪える所に随い」

仏さまの元には、さまざまな機根を持つ大勢の衆生が法を聴くために集まります。理解力の鋭い者・鈍い者、真面目な者・怠け者などそれぞれの機根をよく見分け、それに堪え得るように説かれる教えは、種々無限に広がり、真の幸福に導いてくださいます。一人ひとりの機根に応じて、それぞれが実行できる範囲で導く仏さまお力は、想像を絶するほど大きなものなのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰

２０２４年

２月 **11** 日曜

建国記念の日

友引　壁

旧１月２日

妙法蓮華経薬草喩品第五

現世安穏（げんぜあんのん）　後生善処（ごしょうぜんしょ）

「現世安穏にして、後に善処に生じ」

「現世安穏」を、現在の苦悩から離れ、安穏に暮らすことだと考えるのは間違いです。安穏とは、いつか仏に成れると信じ、境遇に惑わされず、充実した生活を送ることです。そして、現在の生に於いて安穏を得ることが、後生につながっていくのですから、「現世安穏」と「後生善処」はワンセットなのです。安穏を得るために実践するのは自分自身、仏さまはその後押しをしてくださるのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 **12** 月曜

振替休日
先負　奎
旧１月３日

妙法蓮華経薬草喩品第五

一相一味

「それぞれの姿形　それぞれの内容」

大きな雲から一切の木や草に雨が降りそそぎ、大中小それぞれに応じて潤いを受け、おのおの生長していくように、一相（それぞれの姿形）に合わせて一味（それぞれの内容）を説かれるのが仏さまの教えです。

仏さまは、一人ひとりの境遇をよく知ったうえで「一相一味」の教えをお説きになりますが、誰もが仏に成れるという真理は変わることはありません。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 **13** 火曜

仏滅　妻
旧１月４日

妙法蓮華経薬草喩品第五

解脱相（げだつそう）

「生死を離れる」

「解脱相」とは生死を離れることです。
「生死」とは人生のあらゆる変化のこと、それを離れるのが「解脱」です。
人生の変化の中で、どのような境遇にあっても迷うことなく生きていくのが「解脱相」です。
自分は世俗の煩悩から解き放たれたとしても、世の中にはまだ迷っている人が大勢いることを忘れることなく、救いの手を差し伸べていきたいものです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 14 水曜

大安　胃
旧１月５日

妙法蓮華経薬草喩品第五

離相（りそう）

「偏空を離れる」

「離相」とは偏空を離れることです。
「空」とは世間と離れること。
世間から離れることに偏り「自分は悟ったので世間の迷いには関心がない」と、世間と自分を切り離してしまうことが「偏空」です。
「偏空」を離れて、世間で悩み苦しんでいる人たちに思いを馳せ、救おうという心を起こすのが「離相」です。
「解脱相」より一段階上の状態です。

妙法蓮華経薬草喩品第五

未度者令度。未解者令解。未安者令安。未涅槃者令得涅槃。
今世後世。如実知之。我是一切知者。一切見者。知道者。
開道者。設道者。汝等天人。阿修羅衆。皆応到此。為聴法故。
爾時無数。千万億種衆生。来至仏所。而聴法。如来于時
観是衆生。諸根利鈍。精進懈怠。随其所堪。而為説法。
種種無量。皆令歓喜。快得善利。是諸衆生。聞是法已。
現世安穏。後生善処。以道受楽。亦得聞法。既聞法已。
離諸障碍。於諸法中。任力所能。漸得入道。如彼大雲雨於一切。
卉木叢林。及諸薬草。如其種性。具足蒙潤。各得生長。
如来説法。一相一味。所謂解脱相。離相滅相。究竟至於。
一切種智。其有衆生。聞如来法。若持読誦。如説修行。
所得功徳。不自覚知。所以者何唯有如来。知此衆生。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 15日 木曜

赤口　昴
旧１月６日

妙法蓮華経薬草喩品第五

滅相（めっそう）

「自他の区別を滅する」

「滅相」とは自他の区別を滅すること。すなわち仏さまのみ心です。

「離相」の段階では、世間で悩んでいる人を救おうと考える際に、「救うのは自分・救われるのは他者」という自他の区別が存在しています。

しかし「滅相」の段階になると、自分も他者も共に救われ、共に悦ぶことができるのです。

「解脱相」「離相」「滅相」と三つの段階を踏んで「一相一味」を導くのが仏さまの説法です。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 16日 金曜

先勝　畢
旧１月７日

妙法蓮華経薬草喩品第五

若持読誦（にゃくじどくじゅ）

「教えを信じたもち、読誦する」

「持」は、仏さまの教えを信じたもつこと。
「読誦」は、お経を読み、暗記して唱えること。
仏さまの教えを十分わかったつもりでいても、心に迷いが起こってくると、いつの間にかまたわからなくなってしまうものです。
そこで教えを信じたもつために、文字にして伝えられている「お経」を読誦するのです。
ただ読むだけではなく、内容を理解し、忘れないために日々の読誦が必要なのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月１７日 土曜

友引　觜
旧１月８日

妙法蓮華経薬草喩品第五

如説修行（にょせつしゅぎょう）

「説の如く修行するに」

受持読誦して、仏さまの教えを頭で理解するだけでなく、自分の身をもって修行し、世の中がよくなるように実践しなければ、本当に理解したことにはなりません。
実践を積み重ねていくと、自分でも気づかないうちに凡夫の迷いを離れて、仏さまに近づいていくものです。
草木がいつの間にか生長しているように、私たちも悟りに向かって修行を積みましょう。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 18日 日曜

先負　参
旧１月９日

妙法蓮華経薬草喩品第五

種相体性（しゅそうしょうたい）性

「衆生の仏の種がどのくらい育っているか」

「種」は仏になる種、「相」は外見、「性」は内面の性質、「体」は相と性を具えた本体。
仏さまは、仏の種がどのくらい育っているか、一人ひとりの「相性体」を承知しているのです。
「何を願っているのか」「何を考えているのか」「どんな修行しているのか」など、教えの対象である私たちの性格や生き方のすべてを受け入れ、平等に救おうという仏さまの寛大さが「三草二木の喩え」の基本なのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 **19** 日 月曜

雨　水
仏滅　井
旧１月10日

妙法蓮華経薬草喩品第五

而不自知（にふじち）　上中下性（じょうちゅうげしょう）

「而も自ら上中下の性を知らず」

草木が自分の大中小の大きさを知らずに生えているように、私たちも自分の悟りの程度がどの程度なのかを知ることができません。
しかし、仏さまから見れば一人ひとりのことをすべてご承知の上で、それぞれに応じた教えを説かれます。
その仏さまの教えを信じ、地道に修行を重ねていけば必ず仏の悟りに導いてくださるのです。
雨が草木を潤すような仏さまのお世です。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２０日 火曜

大安　鬼
旧１月１１日

妙法蓮華経薬草喩品第五

常寂滅相（じょうじゃくめっそう）

「常に寂滅の相にして」

それぞれの機根によって仏道を歩む者の現在地は違ってきます。
現在地が異なっても、それに応じた地図を示し、時間がかかってもきちんと目的地に導いてくださるのが仏さまです。
最終的に皆が悟りの境界にたどり着き、全ての衆生が仏に成った時においては、何の区別もなく平等になるのです。
それが「寂滅の相」です。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２１日 水曜

赤口　柳
旧１月１２日

妙法蓮華経薬草喩品第五

随宜説法（ずいぎせっぽう）　能信能受（のうしんのうじゅ）

「説法をよく信じよく受け入れた」

お釈迦さまは、迦葉たちが教えを正しく理解し受け入れたと認められました。教えを受ける者の理解力や性格には大きな差異があり、迦葉たちのようにすぐに芽を出す者もいれば、見込みがないように見えても年月を経てようやく大輪の花を咲かせる者もいます。慌てず騒がず、じっくりと育てる心持ちがなければ、人を育て、導くことができません。仏さまは大慈悲をもって導いているのです。

妙法蓮華経薬草喩品第五

如来説法。一相一味。所謂解脱相。離相滅相。究竟至於。一切種智。
其有衆生。聞如来法。若持読誦。如説修行。所得功徳。不自覚知。
所以者何唯有如来。知此衆生。種相体性。念何事。思何事。修何事。
云何念。云何思。云何修。以何法念。以何法思。以何法修。以何法。
得何法。衆生住於。種種之地。唯有如来。如実見之。明了無碍。
如彼卉木叢林。諸薬草等。而不自知。上中下性。如来知是。
一相一味之法。所謂解脱相。離相滅相。究竟涅槃。常寂滅相。
終帰於空。仏知是已。観衆生心欲。而将護之。是故不即為説。
一切種智。汝等迦葉。甚為希有。能知如来。随宜説法。能信能受。
所以者何。諸仏世尊。随宜説法。難解難知。爾時世尊。欲重宣此義。
而説偈言

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２２日 木曜

先勝　星
旧１月１３日

妙法蓮華経薬草喩品第五

破有法王（はうほうおう）

「有を破する法王」

「有」とは差別・差異のこと。人種・権力・財力・才能・容姿などからさまざまな差別が生じ、争いや諍いが生まれます。しかし、強者は弱者を助け、弱者は強者を頼り、その分に応じて互いに力を合わせていけば、平和な世の中になるはずです。

「有を破する法王」すなわち仏さまは、一切衆生の望むところをよく見極めて、差別なくそれぞれに応じて教えを説かれているのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 23日 金曜

天皇誕生日
友引　張
旧１月 14 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

久黙斯要　不務速説

「久しく斯の要を黙して　速やかに説かず」

「要」とは大乗の要点、すなわち誰もが仏に成れるということ。
仏さまははじめから、この「要」を速やかに説くことなく黙していたのです。
相手の機根に応じて浅い教えから深い教えへと順に説かれていったのです。
日蓮聖人は、お釈迦さまが晩年に法華経を説かれた理由として、無量義経の「四十余年 未顕真実」と同じ意味でこの句を引用されています。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２４日 土曜

先負　翼
旧１月１５日

妙法蓮華経薬草喩品第五

慧雲含潤（えうんがんにん）

「慧雲　潤いを含み」

潤いの雨を降らす大きな雲を、仏さまの智慧に喩え「慧雲」といいます。
日照りが続いた後に電光がひらめき雷が鳴った時、恵みの雨を期待するように、一度でも仏さまの教えに接した者は、ありがたい教えにまた触れたいと期待するのではないでしょうか。
「慧雲」からもたらされた恵みの雨・仏さまの教えは、私たちの機根に応じて心の渇きを潤してくださるのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２５日

仏滅　軫
旧１月１６日
日曜

妙法蓮華経薬草喩品第五

枯槁衆生（ここうしゅじょう）

「枯槁の衆生を潤す」

「枯槁」とは潤いが足りず枯れ果てていること。迷い疲れている私たちは「枯槁の衆生」です。地味の悪い土地や岩場に草木を植えて、水も肥料もやらずにおくと、次第に葉が艶を失い、やがて枯れてしまいます。私たちも信念も理想もなく世の中に出たならば、困難にぶつかる度に希望を失い、枯れゆくかもしれません。そうならないための潤いが仏さまの教えです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 26 日 月曜

大安　角
旧１月 17 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

得安穏楽（とくあんのんらく）

「世間を離れた楽しみ」

「安穏楽」とは世間を離れた楽しみのこと。
地位も名誉もお金もいらないと諦めてしまうと
心が平安になるものです。
しかし、皆が「安穏楽」を求め諦めてしまうと、
世の中が立ち行かなくなってしまいます。
人の上に立ち牽引する人がいなければ組織は回
らず、収益を求めようとしなくなれば経済が止
まってしまいます。
「安穏楽」だけでは成り立たないのです。

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月２７日 火曜

赤口　亢
旧１月１８日

妙法蓮華経信解品第四

世間之楽（せけんしらく）

「世間の変化に安らかに堪えていく」

「世間之楽」とは、世間に背かず、周囲の変化に安らかな心で堪えていくことです。

しかし、社会の変化の中で職を失ったり収入が減っても堪え、子供の独立や配偶者の死別による境遇の変化にも堪えるなど、一生堪え続けるのは容易なことではありません。

もしある程度までは堪えられたとしても、死ぬか生きるかという最終的な場面に至ったら、堪えることができるでしょうか？

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月 28 日 水曜

先勝　氏
旧 12 月 19 日

妙法蓮華経薬草喩品第五

及涅槃楽（ぎゅうねはんらく）

「涅槃の楽を得る」

「涅槃の楽」とは自己の仏性を開発することによって得られる楽しみ。
仏さまの悦びと同じように、自分の悦びと他者の喜びを同じにする心です。
一切衆生の苦しみに寄り添い、幸せに導くことを自分の悦びとする心持ちになれば、世間を諦める「安穏楽」も、世間に従う「世間楽」も超え、世間に親しみながら本当の楽しみ「涅槃楽」に至ることができるのです。

妙法蓮華経薬草喩品第五

破有法王　出現世間　随衆生欲　種種説法　如来尊重　智慧深遠
久默斯要　不務速説　有智若聞　則能信解　無智疑悔　則為永失
是故迦葉　随力為説　以種種縁　令得正見　迦葉当知　譬如大雲
起於世間　気覆一切　慧雲含潤　電光晃曜　雷声遠震　令衆悦豫

譬如大雲　普覆一切　既出于世　為諸衆生　分別演説　諸法之実
大聖世尊　於諸天人　一切衆中　而宣是言　我為如来　両足之尊
出于世間　猶如大雲　充潤一切　枯槁衆生　皆令離苦　得安穏楽
世間之楽　及涅槃楽　諸天人衆　一心善聴　皆応到此　覲無上尊
我為世尊　無能及者　安穏衆生　故現於世　為大衆説　甘露浄法
其法一味　解脱涅槃　以一妙音　演暢斯義　常為大乗　而作因縁
我観一切　普皆平等　無有彼此　愛憎之心　我無貪著　亦無限碍

法華経　日めくり

令和６年 甲辰
２０２４年
２月29日 木曜

友引　房
旧１月20日

妙法蓮華経薬草喩品第五

普皆平等（ふかいびょうどう）

「普く皆平等にして」

仏さまは一切衆生を見るときは皆平等にすべてを導き救おうとお思いになっています。出し惜しみすることも、差別することもなく、一人ひとりのために同じように全力を注ぎ、救い導く以外のことは考えず、疲れを知らず常に教えを説き続ける。

まさに、等しく草木に降りそそぐ雨ような大慈悲があってこそ、仏さまが私たちに接する際の「平等」なのです。